

新北見市史 資料編 目次

口 絵

北見の地誌	1
常呂川流域の地勢／常呂川流域の地質	
北見の気候	16
気象統計	
植物(常呂川流域の自然を愛し豊かな植物相を探究した人々)	24
北見市の景観と植生／常呂川流域の自然を愛し豊かな植物相を探究した人々・団体／常呂川流域の植物一覧	
端野町のカタクリ	55
樹木医	63
北見市周辺の野鳥	66
はじめに 鳥の種類は何種類か／北見の鳥相／北見市周辺の野鳥／北見市の鳥類目録	
北見市の蝶類	83
植物環境と分布／昆虫研究の流れ／北見市動植物調査報告／合併後拡大した地域の昆虫／北見市の蝶／北見市産蝶の分布と発生一覧／北見市の昆虫採集・分布・生態研究をした人物／生息分布地の今昔／後記	
水産統計	101
殖民公報統計 鯿・鮭・鱒の収穫量／常呂村村勢一班魚種別漁獲高／常呂川さけ・ます放流数及び捕獲数／常呂郡の漁船数の推移／北海道水産現勢常呂漁船の推移／魚種別漁獲量及び金額／常呂漁業協同組合組合員の推移／北海道水産現勢／北海道漁業現勢／水産製品生産高／北海道農林水産統計年報(属人統計)／鮭・鱒漁獲推移／北海道水産現勢主要魚種別累年データ／北海道市町村勢要覧類別漁獲量／北海道市町村勢要覧類別漁獲高の推移	
屯田歩兵第四大隊における出身地の構成と特色	169
屯田歩兵第四大隊 第一中隊(端野)／第二中隊(野付牛)／第三中隊(相内)／第四中隊(南湧別)／第五中隊(北湧別)／第四大隊中隊別出身県順位／第四大隊出身者県別入植者数／第四大隊出身者郡別入植者数	
北光社における入植者名簿	203
明治30年入植者名決定のための氏名対照一覧／瀬戸港乗船者及び同港乗船と考えられる者／須崎港乗船者及び同港乗船と考えられる者／乗船港は不明だが、北光社に入植したと考えられる／先発隊で、北光社で越冬した者／浦臼からの移住者	
アイヌ語地名	227
常呂町のアイヌ語地名(サロマ湖及びオホーツク海沿岸)／常呂町のアイヌ語地名(常呂川流域)／端野町のアイヌ語地名／北見市のアイヌ語地名／留辺蘂町のアイヌ語地名	
郵便局開設状況	273
主な火災の記録	281
人口統計	284
校章	290
合併協定書	293
新市まちづくり計画の基本目標ごとの主な実施事業一覧	338
開設公園一覧	351
新庁舎建設ニュース	354

戊午東西蝦夷山川地理取調日誌(松浦武四郎)	516
北見開発のさきがけ 澤本楠弥略伝	492
北海道北見國 野付牛村移住の栞	485
屯田兵員及び家族教令	479
屯田兵村自治参考書	474
屯田兵村の生活	426
回顧録 島次作	422
野付牛村誌	408
北見における駅通	400
ル・ペシ・ペの墓標	396
北見地方の小作争議	370
将来外科医になったら ブラックジャックセミナー体験記	367

凡 例

1. 本史は『新北見市史』「上巻」「下巻」「年表編」「資料編」全4巻のうちの「資料編」である。
2. 史書の例にならって人名はすべて敬称を略した。
3. 記述は努めて平易なものとし、学術用語等を除いて極力、常用漢字・現代仮名遣いを使用し、必要に応じふりがなを付した。
4. 本史は主に自然資料、歴史資料、統計資料で構成されている。
5. 自然資料、統計資料については、横書きを主としたが、歴史資料については、原文のまま縦書きを採録したことから本史の前半は横書き、後半は縦書きの仕様となっている。
6. 本史執筆にあたっては、担当分野の執筆者の意向を尊重し、原則として、表現や表記等については統一を図るよう務めたが、その限りではない。
執筆分担者を次に示す。

『新北見市史』資料編 執筆担当者一覧

北見の地誌	金山 美香 (協力員)
北見の気候	齊藤 幸喜 (市史編さん主幹)
植物 (常呂川流域の自然を愛し豊かな植物相を探究した人々)	高岡 潤 (専門委員)
端野町のカタクリ	大橋 秀規 (編集委員)
北見市周辺の野鳥	花田 行博 (専門委員)
北見市の蝶類	進 基 (専門委員)
水産統計	山田 眞司 (協力員)
屯田歩兵第四大隊における出身地の構成と特色	大橋 秀規 (編集委員)
アイヌ語地名	佐々木 覺 (編集委員)
郵便局開設状況	石井 健一 (副編集委員長)
主な火災の記録	海野 勲 (編集委員)
	石井 健一 (副編集委員長)
戊午東西蝦夷山川地理取調日誌 (松浦武四郎)	佐々木 覺 (編集委員)
屯田兵村自治参考書	大橋 秀規 (編集委員)